

平成28年度第3回江南市地域公共交通会議 会議録

- 日 時 平成28年10月14日(金) 午後2時～午後3時40分
- 場 所 市役所 3階 第2委員会室
- 委 員 出席委員14名(磯部 友彦、平野 富一、桑原 良隆(代理:主事塚崎 有里)、近藤 博之、古田 寛、河村 富貴、古橋 靖弘、向原 宏、山田 敏也、村瀬 徳行、倉橋 義一、原 朋子、佐藤 和弥、武田 篤司)
欠席委員4名(森 一浩、坪内 三、長屋 涼、脇田 和美)
オブザーバー2名(名古屋鉄道株式会社鉄道事業本部西部支配人 水野 泰、大口町地域協働部長兼町民安全課長 鵜飼 嗣孝)
- 傍聴者数 8人
- 資料1 : 利用者アンケート調査結果について
- 資料2-1 : 江南市地域公共交通を語る会の開催結果
- 資料2-2 : 江南市地域公共交通を語る会配布資料
- 資料3-1 : 基礎調査結果のとりまとめと今後の対応(案)フローチャート
- 資料3-2 : 基礎調査結果のとりまとめと今後の対応(案)
- 資料3-3 : 江南市の公共交通に関する協議体制の考え方(案)
- 参考資料1 : 大口町コミュニティバス時間帯別利用状況
- 参考資料2 : 平成27年度バス路線(区間)ごとの補助額

○会長あいさつ

会 長 皆様こんにちは。お忙しい所、集まっていただきましてありがとうございます。暑い夏も過ぎまして、いよいよお出かけによい気候になってきたなと思っております。色んなところでお祭り等もあるのではないかと考えております。

一昨日、東京で停電がありましたね。あれ私は割とショックを受けていまして、私は交通関係の人間なのになんで電気のことなのかと言いますと、電車が止まったということもあるんでしょうけれども、結局あれは線で繋がっている訳ですね。交通も線で繋がっているわけでしょう。すると、どこか一カ所やられると、やっぱり繋がらなくなってくるという話なんですね。今回の停電も35年ずっと使ってきたんだけれども点検をあまりやってこなかったということがありえるわけです。物というのは一度作っただけではだめで、やっぱり点検をしていかなければいけないということなんですね。

では、この地域交通会議でどう考えるかというのと、市内の交通の在り方を、一度路線が完成したからいいやというのではなく、やっぱり点検しないといけないんですね。そうすると、どのように使われているか、うまく使われているかどうか、バスの車両の点検や道路の点検などはプロに任せればいいんでしょうけれども、どのように使われているか、実際使われているか、どのように使われているか、何か課題があるか。実は課題が見つかったからでは、停電と同じなんですね。課題が見つかる前にいかどうか見つけられないといけないと思っております。そういう意味では、今回江南市では色々と調査を行い、まさに点検ということでやってきたわけでありますから、そういう目で皆さんもデータを一緒に見ていただければと思います。よろしく願いいたします。

○報告事項

利用者アンケート調査の結果について

会 長 それでは、報告事項より先に進めます。まず「利用者アンケート調査の結果について」について報告を受けたいと思いますので、事務局より説明をお願いします。

事務局 資料1に基づき説明。

会 長 ありがとうございます。ただいま、事務局より説明がありましたが、資料1「利用者アンケート調査の結果について」に関しまして、委員の皆様のご質問、ご意見がありましたら、お願いします。

委 員 確認というか、資料があれば説明いただきたいんですけど、アンケート集計結果の回答者の属性ということで、4ページ、こちらは年齢なんですけれど、ちょっと幅広すぎやしないかと。60歳未満という括りで本当に良いのかということがあってですね、今後バスを利用する人がどれだけいるのかなと思ってですね。例えば50～60歳の方はきっと、あと10～15年すればタイヤされるということになるのかなと思うと、もう少し

詳細な数字があったほうが、この集計方法でいいのかというのが私の意見です。もしより詳細なデータがあるのであれば、いこまいCARは良いとして、他の3つはいただけるとありがたいなと思うんですけど。

それともう1点。平成25年の調査でも同じようなアンケートを実施していたと思うんですけど、そちらとの絡みがあればご案内いただければと思います。

会 長 今2つありまして、年齢区分の集計上の課題、もう少し細かい数字がないかという話と、前回の調査との比較ができれば良いんじゃないかなとご指摘をいただきましたけど、いかがでしょうか。

事務局 今回の利用者アンケートにつきましては、具体的に年齢を確認していますので、5歳刻みの年齢区分での報告ができるんですけど、手元に持っていないものですから、次回ご報告させていただくということをお願いしたいと思います。

それと平成25年のアンケートのときには、10歳刻みで整理をさせて頂いておりましたので、同じような形でまとめてご報告をしたいと思います。今回の整理としては、基本的にはお年寄りの外出等に困難をきたしていないかという観点で調査を整理したということもございまして、60歳以上を中心に整理をすればよいかということで、お手元の資料のように対応させていただいております。あらためてデータをご報告させていただきますのでよろしくお願いたします。

会 長 是非お願いします。通常の路線バスですので、いろんな方が使われるという情報があると、次の政策に生かせるかなと思います。

この調査はある特定の日にはしかやっていないということで、データにはその調査日の特性が入ってきている可能性もありますので、絶対数字が正しいとまでは言い切れないのがなかなか調査のつらいところであるんですね。ですけども、傾向をつかむということでご了解いただければと思います。

他よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

○報告事項

江南市地域公共交通を語る会の開催結果について

会 長 続きまして2つ目の報告事項、「江南市地域公共交通を語る会の開催結果について」ですけれども、事務局より説明をお願いします。

事務局 資料2-1及び2-2に基づき説明。

会 長 ありがとうございます。資料2-2を見ていただければ、5日間の開催について、1つに整理していただいているということでありまして。どの意見が強い・弱いということはまとめてありませんけれども、とにかく列挙していただいております。このあたりについて、皆様からご質問、ご意見がありましたら、いかがですか。

会 長 では、私から。現場にいなかったのですが、どんな会合の雰囲気だったか、お伺いしたいと思うんですけど。事務局の説明を受ける前と後で、参加者

の考えや交通に対する想いというのは変わってきたかな、なかなか難しい所とは思いますが、事務局側としては反応を把握しているかなと聞きたいんですが、いかがでしょうか。

事務局 私はファシリテーターではない形で、計4回参加させていただきました。少ない人数ということもありましたけれど、どちらかと言うとご自分の意見をお持ちになってそのお考えを述べられる感じでした。もちろん説明は説明として聞いていただく環境ではあったのですが、それぞれ皆さん自分の考えを持ってきて、そのお答えを答えられた方が多かったようにお見受けいたしました。

会 長 そういう状況ですね。説明を受けた形で意見が出たというわけではなくて、もともと普段から感じてらっしゃることを発言され、それを事務局側が整理されたということですね。

委 員 私は9月2日に古知野北部地区に参加させていただきました。ここは公共交通の恩恵を受けていない地区の方が多く集まりまして、バス路線よりも他の自転車通学路等をもっと整備してほしいとの意見が多くありました。バス路線だけですと、幹線の道路しか通っておらず、奥の道に住む方はほとんど恩恵を受けていない。そういう地区については、道は狭くてバスも通りづらいですから、代わりに自転車専用道路をもっと江南市に整備してほしいということがありました。

会 長 ありがとうございます。ご参加された方の当日のお話をいただきました。江南市地域公共交通を語る会は5つの地区で開催されましたので、地域ごとに環境条件は違うということと、他の交通手段との関係も地域の方は気にされているようです。今回は地域交通を考えるわけですが、本来なら全ての交通を考えていかないと地域の交通は成り立たないということだと思います。このあたりをうまく整理できるようであれば整理していただきたい。

委 員 さまざまな意見があって、大変面白いという感想です。名鉄バスさんに対する意見だとか、いこまいCARに対する意見だとかいうのがあって、意見のなかにはすぐに対応できそうなものも見え隠れしていて、事務局としてはどのように対応されるお考えでしょうか。

会 長 課題が見つかったという話ですから、すぐに手直し・対応できるところとできないところがあるのではないかとというご意見でありますので。事務局いかがですか。

事務局 次の協議事項にございます、今後の対応方針の中でお話しさせていただきましたのでよろしくお願いたします。

委 員 出席者のことをお聞きしたいのですが、どのような方が出席されたのか、男女の比率や年齢層などわかるものがあると助かるんですが、どうでしょうか。

会 長 資料2-1で出席者数はわかっていますが、もう少し細かい情報はないのかというご意見でありました。

事務局 まず男女別の参加者数ですが、男性53人、女性27人でした。年代別は70代が41.2%、60代が46.2%、50代が6.3%、40代

が6.3%という結果でございました。

会 長 60代以上の方が多く、男女の割合も男性のほうが多かったということなのでですね。よく利用者数を見ると女性の方が多いという結果が出てくるのですけれども、この会合に関しては男性の方が若干多かったということでしょうね。

委 員 この会はランダムに選んだ方ではなく、希望する人・発言したいしたい人がお集まりだと思うんですね。こういう人たちの意見をまとめて参考にし、今後の対応を100%決めるのは危険ではないかと思うんですね。会長がご指摘されたように実際利用するのは女性が多いんだけど、今回は男性の意見が多いですよ。60～70代が多いですよ、20～30代はほとんど参加されていない。こういう状況の下で、これをベースにして対応方針を決めていくのは無理があるのかなという感じがするんですけど、その辺はいかがでしょう。

会 長 この情報の今後の取り扱い方ですね。全体で色々な調査をしていく中でのこの調査の位置付けに関して、事務局よりご説明していただけますか。

事務局 確かに委員がご指摘されるとおり、会合の出席者された方と実際の使われる者が違うということは事務局としても把握しておりますので、そうしたことも踏まえながら、次の協議事項の中でお話しができたらと思っておりますのでお願いいたします。

会 長 次の協議事項でお話ししたいなということでした。他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

○協議事項

基礎調査結果の取りまとめと今後の対応方針について

会 長 続きまして、協議事項に入らせていただきます。「基礎調査結果の取りまとめと今後の対応方針について」、事務局より説明をお願いします。

事務局 資料3-1、3-2、3-3説明に基づき説明。

会 長 ただいま、事務局より「基礎調査結果の取りまとめと今後の対応方針について」について基礎的な考え方を示していただきました。これを本日の協議事項という形で、今から協議を進めていきたいと思っております。委員の皆様からご質疑、ご意見を頂ければお願いします。

委 員 さきほどの補助金額算定一覧表を見ますと、私は厚生病院一すいとぴあ間に住んでおまして、ガラガラの状態が何とかならないかと思いましたが、この欠損額を見て、また非常に驚いております。平成27年度ですが欠損額539万円余りですか、その他にも、布袋—江南駅、それから江南駅—団地、団地—厚生病院と、この欠損額が年間で約3,000万円ですね。一般市民の方もこれだけの欠損額が出ていることをまず知らないと思っております。私も初めてこの資料を見て、驚いておりますが、厚生病院一すいとぴあ路線以外にもこれだけの欠損額が出ているのは驚きの連続です。

例えば、厚生病院一すいとぴあ間の年間欠損額の593万円余りを、12

か月で割って、1日あたりどのくらい赤字が出ているのか計算してみました。私の計算が間違っていなければ、1往復で約2,000円かかっており、その約半分が欠損額でした。1往復走るのに、約1,000円の赤字で運行しているわけです。

この他にも、例えば欠損額800万円とかの場合、1往復当たりの欠損額が大きいわけですね。ですから、この欠損金額をいかに小さくしていくか協議をしていかないと。この欠損額は27年度ですけれど、今までと比べて見て大きくなっておりませんか。

事務局 大きくなってきております。

委員 欠損額が増加傾向にあるということは、これからさらに大きくなるという予想が立ちますよね。それに対して、何か方策は考えているのでしょうか。

会長 という委員のご指摘ですけれど、それに対して事務局、お答えありますか。事務局 資料3-2の10ページをご覧ください。「名鉄バスについて」という項目の、税投入の見直しについての検討の中で、引き続き検討していく必要のあるものと認識しております。

委員 検討すると言っているだけでは時間だけが過ぎていきますよね。検討するだけではなく、いつか手を打たないとこのまま増えていく可能性が大です。資料でも人口のカバー率8割と言っていますが、8割という数字をすごく自慢しているように聞こえたんですけど、カバー率は金額と照らし合わせて考えていかないと。金額をどんどんつぎ込んでいけば、例えばカバー率100%もできることも考えられます。いかに経費を安くするかというのが、我々市民にとって一番重要な関心事だと思います。年間3,000万円の欠損額というのは、我々市民の感覚では考えられません。早急に手を打って、いかにこの額を少なくするかということをやっていたいただきたいと思います。

会長 今のご指摘は事務局側もわかっており、わかっているからこそ課題に挙げて、検討していこうということです。ただ、どういう風にしたらいいかというのは、皆さんと話し合ってから対応策を考えていくということだと思います。今、委員がおっしゃったとおり、お金を投入すればするほどカバー率は増えていく。確かにそのとおりです。ですけど、そのバランスですよ。これはどこのまちでも皆さん議論していることですので、是非ともそのような議論を江南市でもしっかりやっていただきたいと、私も個人的に思っております。

事務局側も課題に正面から向き合っていく覚悟があるということによろしいですね。

委員 もう1点言い忘れましたが、いこまいCARは私の提案で人数を載せてくださっていますが、名鉄バスの乗車人数も資料に載せていただけたらわかりやすいと思います。

事務局 名鉄バスの乗車人数に関しては、第2回会議にてお示ししています。

委員 承知しました。

それと、厚生病院一すいとぴあ間はだいたい2.5kmくらいだと思いますけど、距離が伸びればそれだけ経常経費もかかると思うのですが、1k

mあたりどれだけの費用がかかっているかの目安も試算していただけると、現状把握に役立つと思うがいかがでしょうか。

会 長 今、委員がおっしゃられたのは、バスの経費の計算方法ですね。色々な計算方法がございますので、名鉄バスさんに伺えば、名鉄バスさんの計算方法をお持ちですね。それでやっていると思いますが、名鉄さんは細かい数字は別として、そういった計算式を持っていますね。

委 員 補助につきましては、きちんと決まった方式がありますし、キロあたりの原価算定方法を当社にて持っております。

会 長 それらも議論の時にはきちんと表に出して議論していくということでしょうね。と言いながらも、名鉄バスさんも企業努力をかなりやっておられると聞いております。キロ単価を下げようかなり努力なさっているということも何度も聞いておりますので、それを認識した上でどうするかを皆さんで話し合うということだと思っております。よろしくお願いたします。

委 員 私が先ほど発言で確認したかったのは、もう少し簡単な話で、補助金投入にかなり関係してくるんですけど、いこまいCARは高齢者だけのものだよという言いぶりがあるって、そこはこれから宣伝していくのか、それとも補助額が上がってしまうのでこのまま状況を見守るのか、その辺りの方針に関するご質問と、また、タクシー業者さんがどこまで対応できるのか、どうなっているのかを情報共有しておいた方がよいのではと思って確認させていただいたということなんですけれど。

事務局 現状、市の広報等にも情報を掲載しており、今の委員のご質問であれば、広げていくということでPRに努めておりますが、それに対する利用者は横ばいなのだろうという認識を持っております。今後につきましても、義務教育を終えた方が対象となっておりますので、どうしてもお金は無視できないですけども、基本的にはPRしていくべきものと考えております。

事務局 今お話しがありましたとおり、今回の語る会でも意見があったのは、今はまだ足（交通手段）があるからいいけれども、将来が心配だという意見も多くあったんですね。平成25年のアンケート調査結果を見ましても、やっぱり制度を知らないという声が相当あったものですから、今お話ししたとおり色々なPRはしてきました。ただ、現在は色々な交通手段で皆さん充足しているので今はまだいいのだけれども、将来的にはどうなるかわからないということは確かにありますが、今はもっといこまいCARを使っていたらこうということでPRしておりますけれど、結果として利用状況は横ばいになっているというのが現状です。

会 長 供給がネックなのでないかというようなご指摘ですけど、タクシー側として十分まだいける状況なのか、大変なんだという状況なのかどのような状況でしょうか。

委 員 いこまいCARサービスの供給は可能なんですけれど、アンケートにもご意見ある、予約を当日にもという話については、件数が多いものですから、供給が追い付かなくなるので、現状は前日までの予約対応で精いっぱいという状況です。前日予約までの対応ということでしたら、まだまだ供給は大丈夫なんですけれども、当日予約まで対応するとちょっと厳しいのかな

という感じがします。

こちらはバスと違って、件数が増えれば増えるほど、補助金額が増えるということでございますし、実際今日私も市役所に来たらですね、公共交通バスを利用しようというポスターが1階にどんと掲示してある一方で、いこまいC A Rの掲示はないのかと探したら広報のものがちょっと貼ってあるだけでした。これがなんとなく姿勢かなと感じがするんですね。コミュニティバスとか公共交通については、どうしても収支がペイできないのを自治体が負担すると。補助の分は仕方ない部分があるのですけれども、その辺のさじ加減は非常に難しいと思います。タクシー自体はまだいくらでも供給できるけれども、当日予約まで対応しはじめると厳しいというのが現状です。

会 長 大きな流れとしては、資料3-2及び3-3の内容というのは、検討部会という名前の下部組織、何を上で下とするかは難しいところではあり、上なのか横なのかはまだよくわかりませんが、本会議に密接に連携した会議を持ってきて、適切なメンバーの方に集まっていただいて、色々と細かいデータや意見を寄せて議論していくということを繰り返しやっていきたい、ということが提案としてございます。それが今日の一番大きな話です。その検討部会の中で細かい対応、お金の話や、路線の話、また、少し他の乗り物ですね自転車の話もありますので、そういったものを併せて議論していく、そのような会議体を持つことに関して、何かご意見ございませんか。

委 員 結局のところは住民サービスの質・量と、それに対する税負担の両天秤をどこでつりあわせるかということだと思っておりますけれども、その場合、誰が決めるかということ、地元住民だと思っております。この会議の場でそれを全面的に決めるのはなかなか難しい部分で、地元住民がどういう意向でいるかということ把握することが一番大事だという意味でいくと、市民の意見を吸い上げるための下部組織(会議)ということなら、悪くないと思う。以前私は地元で町内会長や自治会の役員をしていたことがございまして、基本的にそういう役職をやる方の中には色々としっかり考えている方もいらっしゃるんで、そういう自治会・町内会等の組織を活用して意見を集約することを試みてもよいのかと思います。

会 長 まさに住民参加型の組織が必要だというご意見でございましたので、そういう風に組織の作り方を考えたらいいのでは、という示唆をいただきました。

行政側も、色々な部局がございしますが、都市計画、民生部門(福祉部門)、ひょっとしたら教育部門など色々な部門が関係してくるのかもしれませんが。住民というと住んでいる人だけを思い浮かべがちなんですけれども、市外から来るからもいらっしゃるし、企業の通勤の話も当然ながら含まれてきます。行政の中のいろんな部局が交通問題を抱えていると思いますので、連携して体制づくりをしていただきたい。

交通は色々な関係者がございまして、乗り物関係、警察、利用者関係もございまして、幅広く会議に参加してもらう必要がある一方で、あまりに多

い人数で会議をすることはできませんので、うまくバランスをとって、各代表選出ということになるのかと思う。色々な組織の代表の方に集まっていただいて、議論や意見が噛み合うように、うまく組織づくりができればいいのかと思います。

この組織で何を議論するか、そんなような話もございますけれど、何かお知恵やご助言がありましたらお願いしたいんですが、いかがでしょうか。

会 長 よろしいですか。また、何か思いついたら、事務局側にご連絡ください。それで本日は何を決めるかという、資料3-2を承認するという事なんですが、細かい部分はさておき、今回色々な調査をして、何らかの検討する方向性は見えてきたところです。細かいところは変更が出てくる可能性があります。それに関して、検討部会を中心にしっかり議論していただく、ということに関して議決して検討部会の立ち上げをすすめていただきたいなと思う。それについての賛否を取りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、今私が発言しましたとおりの内容で、基礎調査・計画の取りまとめと今後の対応方針について賛成の方は挙手をしてください。

(委員全員が挙手)

会 長 どうもありがとうございます。みなさん手を挙げてくださいましたので、ただいまの対応方針については承認することといたしました。

以上で、予定しておりました報告事項及び協議事項は、すべて終了しました。事務局から、何か連絡事項等がありますか。

○その他

委 員 資料「平成28年度地域公共交通シンポジウム in 中部」に基づき説明。

委 員 資料「エコモビリティライブ 県民の集い2016」に基づき説明。

事務局 本日の会議におきまして、「基礎調査結果の取りまとめと今後の対応方針について」ご承認をいただきましたので、この方針を基に報告書の案を作成してまいりますのでよろしくお願い致します。

事務局 今後の会議日程について説明

会 長 意見等無いようですので、これをもちまして、本日の江南市地域公共交通会議を閉会させていただきます。慎重なご審議を賜り、誠にありがとうございました。